

〈幼稚園教育〉

幼児自ら人とかかわる力を育むための環境構成と援助の工夫 ～渡嘉敷島のよさをいかした交流活動を通して～

渡嘉敷村立渡嘉敷幼稚園教頭 我喜屋 なおみ

I テーマ設定の理由

〈今日的課題〉

本園のある渡嘉敷島は、那覇から近い風光明媚な離島である。島には本土出身者や核家族の家庭、そして、少しずつ都会化している現状がある。渡嘉敷幼小中学校は併置校であり、同じ教育目標の下、学びの連続性を踏まえ、11年間で連携・協力して子どもたちを教育している。渡嘉敷島には、高校がなく中学校を卒業すると、高校進学のために島を離れ、本島での生活をせざるを得ない現状がある。「15の春」である。その為、島の子どもたちには、広い社会のさまざまな人たちと臆することなく育ってほしいと願うところである。

〈幼稚園教育要領から〉

幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」では、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。」とあり、また、内容(13)の本文の中に「近年は、家庭においても地域においても人間関係が希薄化し、子どもたちの人とかかわる力が弱まってきている。そのような現状の中で幼稚園において、地域の人たちと積極的にかかわる体験を持つことは、人とかかわる力を育てる上で大切である。」と示されている。

〈本園の実態〉

本園の幼児は明るく元気で人懐っこい子が多く、園内では、習慣的なあいさつはできるが、場が変わって日常生活全般を通しては、その場に応じたあいさつができていない。本園は、併置校のため小中学校のお兄さん、お姉さんが身近にいて、いつでも触れ合うことができ、学校職員も幼児に対して言葉かけをしてくれ、また、日頃から保育所や高齢者とのかかわりもあるが、その内容等は、交流活動をこなしているだけのかかわりが多かったように思う。

〈これまでの保育を振り返り〉

これまでの保育所や小中学校、高齢者との交流活動等を振り返ってみると、幼児が楽しく主体的にかかわろうとしていた活動であったか、計画や内容は、教師主導型になってはいなかっただろうか考えた。また、あいさつに関しても、教師の前では上手にできる子も、場所が変わったり、園を離れた日常生活や地域の方へのあいさつができない子もいるということは、子どもたちの心を通り抜けていなかったのではないかと。子どもの育ちとしては、育っていなかったのではないだろうかと反省する。

〈本研究において〉

そこで、二年間という長期研究期間の中で、幼児自ら人とかかわる力を育むための環境構成と援助の仕方を工夫し、幼児が積極性を身に付け、自分の思いや考えをきちんと伝えられるようにしていきたい。島のよさとは何か、また、島が変わってきて、地域のネットワークが少しずつ崩れかけている状態なので、園児を通して保護者のネットワークもつくっていききたい。そして、小中学校や高齢者との交流活動等を通して、何をどのように繋いでいくかを研究したいと思い、本テーマを設定した。

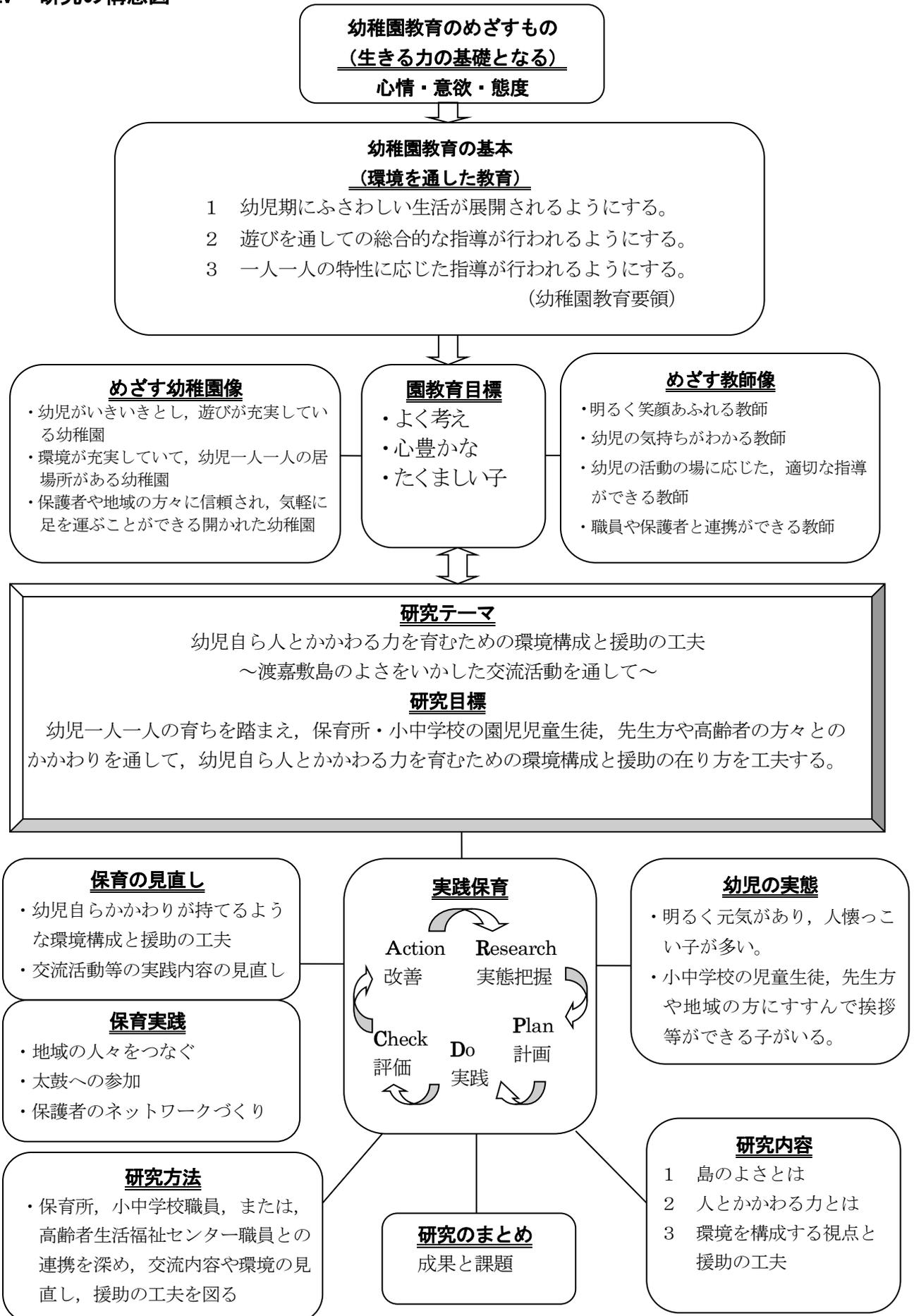
II 研究の目標

幼児一人一人の育ちを踏まえ、小中学校の児童・生徒、先生方や高齢者生活福祉センターを利用している高齢者の方々とのかかわりを通して、幼児自ら人とかかわる力を育むための環境構成と援助の在り方を工夫する。

III 研究の方法

保育所、小中学校職員、または、高齢者生活福祉センター職員との連携を深め、交流内容や環境の見直しを図る。

IV 研究の構想図



V 研究の内容

1 渡嘉敷のよさとは

青い海，白い砂浜，豊かな自然・・・その中で，子どもたちは，のびのびと生活している。また，周りの方々は，子どもたちのことを知っていて，地域行事に参加したり学校行事の際には，みんなが，子どもたちを応援・激励してくれている。子どもたちは，おじいさん，おばあさん，周りの方々から温かく見守られ，可愛がられて，日々，成長している。このように温かい環境の中で育った子どもたちは，渡嘉敷島を離れ，広い社会に出て行った時に，自分が生まれ育った島のため込まれた島のよさが，生きる力のベースになっていると考えられる。

- (1) 幼小中学校一貫した，教育活動ができる併置校のよさがある。(幼小中学校交流)
- (2) 恵まれた自然環境の中，豊かな保育の体験ができる。
- (3) 幼児，児童の生活圏が広域でないことから，家族同士のつながりも見られ，お互いをよく知っている。また，その生活圏に小中学校の先生方も住んでいることから，学校以外の時間でも親しい関係を築く環境にある。
- (4) 比較的，安心して子どもだけで遊べる地域環境であり，子どもたちへの安全を呼びかける地域である。
- (5) 漁業や観光業等の島の産業に生活の中で直接かかわることができる。
- (6) 地域の方々との深い絆がため込まれている。

2 家庭や地域を活かした，幼稚園教育の推進における幼稚園の役割とは

家庭・地域社会・幼稚園等施設における，それぞれの教育機能が連携することにより，幼児の日々の生活の連続性及び発達や学びの連続性を確保することが必要である。幼稚園は，幼児期の教育のセンターとしての役割を家庭や地域との関係において果たすことも期待されている。また，その成果を円滑に小学校へ引き継ぐために幼児教育の充実を図ることが大切である。

- (1) 「お父さん先生・お母さん先生」を通して，保護者同士の絆が深まっている (IV 1-(4))。
- (2) 保護者や地域の方が，幼稚園に対して協力的である。
- (3) 幼小中学校と地域がつながる文化活動の取り組みがある。
- (4) 保育所や高齢者生活福祉センターとの交流は，年間を通して実施している。

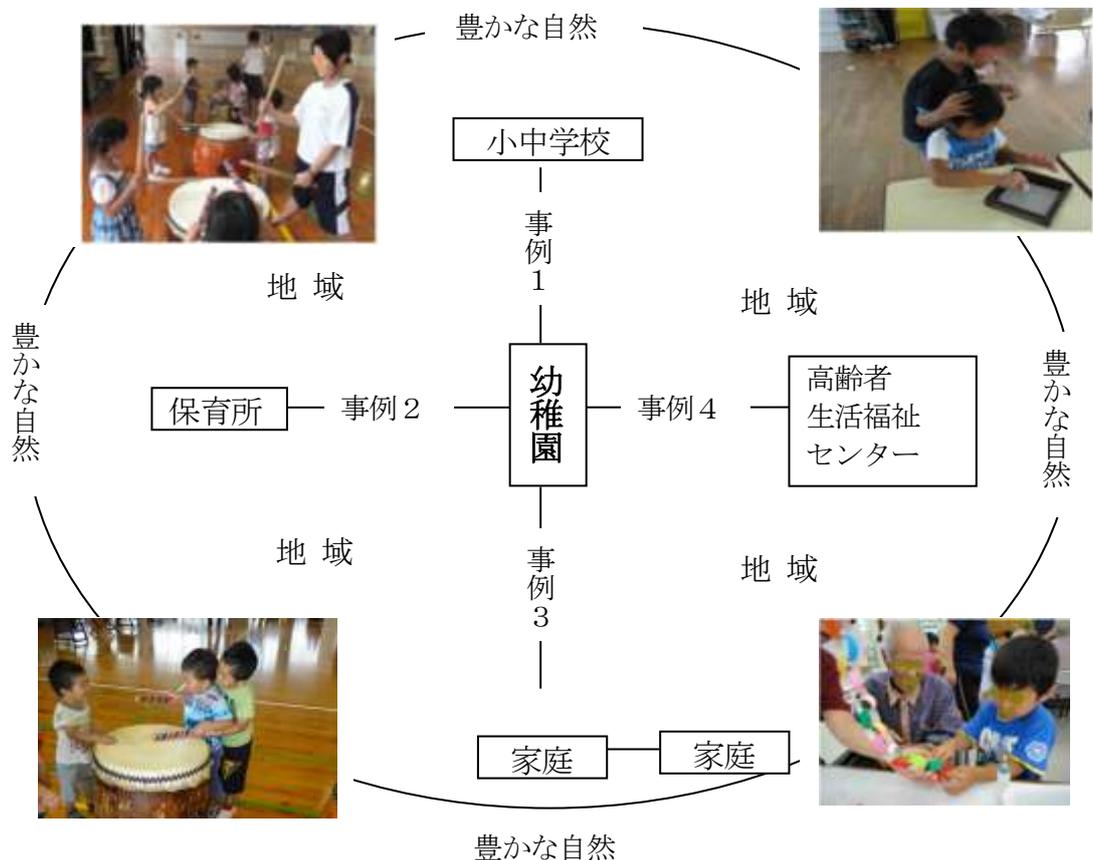


図1 幼稚園と地域とのかかわり

3 人とかかわる力とは

幼稚園教育要領解説では、人とかかわる基礎は、自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安定感から生まれる人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。また、内容の取り扱いの(6)では、「幼児は、限られた人間関係の中で生活しているので、幼稚園生活において、高齢者をはじめ異年齢の子どもや働く人などの地域の人々で自分の生活と関係が深い人とふれあったり、交流したりすることは、人とかかわる力を育てる上で重要である。」と示されている。

幼稚園生活においては、「教師との信頼関係に支えられた生活」「興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活」「友だちと十分にかかわって展開される生活」が保育の中で展開されることで、幼児が充実感や満足感を味わい、人とかかわる力が育まれていくものと捉える。

(1) 教師との信頼関係に支えられた生活

幼稚園生活では、幼児は教師を信頼し、その信頼する教師によって受け入れられ、見守られているという安心感をもつことが必要である。その意識の下に、必要なときに教師から適切な援助を受けながら、幼児が自分の力でいろいろな活動に取り組む体験を積み重ねることが大切にされなければならない。それが自立へ向かうことを支えるのである。

(2) 興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活

興味や関心から直接的で具体的な体験は、幼児が発達する上で豊かな栄養となり、幼児はそこから自分の生きる世界や環境について多くのことを学び、様々な力を獲得していく。幼稚園生活では、幼児が主体的に環境とかかわり、十分に活動し、充実感や満足感を味わうことができるようにすることが大切である。

(3) 友だちと十分にかかわって展開する生活

幼児期には社会性が著しく発達していく時期であり、友だちとのかかわりの中で、幼児は相互に刺激し合い、様々なものや事柄に対する興味や関心を深め、それらにかかわる意欲を高めていく。それゆえ、幼稚園生活では、幼児が友だちと十分にかかわって展開する生活を大切にすることが重要である。

4 環境を構成する視点

(1) 環境を構成する視点とは

幼稚園教育要領解説によると、「環境の構成において、幼児が自分を取り巻いている周囲の環境に意欲的にかかわり、主体的に展開する具体的な活動を通して様々な体験をし、望ましい発達を遂げていくよう促すようにすることが重要である。そのために、**発達の時期に即した環境、興味や欲求に応じた環境、生活の流れに応じた環境**の視点から具体的な環境の構成を考えることが必要である」と示されている。

① 発達の時期に即した環境

幼児が生活する姿は、発達のそれぞれの時期によって特徴のある様相が見られる。それは、その時期の幼児の環境へのかかわり方、環境の受け止め方の特徴でもあるということもできよう。具体的なねらいや内容に基づいた環境を構成する際には、発達の時期にこのような特徴をとらえて、どのようにしたらよいかを十分に考える必要がある。

② 興味や欲求に応じた環境

幼児がどんなことに興味を持ち、どんなことをしたいのかを感じ取り、それを手掛かりとして環境の構成を考えることが大切である。しかし、環境の構成は幼児の望ましい発達を促すためのものであるから、幼児の表面的な興味だけにとらわれるのではなく、今どのような経験をするのが大切なのかを併せて考えていく必要がある。つまり、教師が幼児の中に育ててほしいと思うことや指導のねらいによって、環境を構成することが重要である。

③ 生活の流れに応じた環境

前日から翌日、前週から翌週というように幼児の興味や意識の流れを大切に自然な幼稚園生活の流れをつくり出していくことが大切である。さらに、意図性と偶発性、緊張と解放、動と静、室内と屋外、個と集団など、様々なものがバランス良く保たれた自然な生活の流れをつくり出すことが必要であり、偏った環境にならないように配慮していくことが大切だと示されている。

VI 研究の実際

1 保育実践

(1) 6月13日 「お兄さんお姉さん、保育園児との太鼓は楽しいな」 ～ 保育所(ぞう組)・中学2年生との交流活動より ～

経緯	幼稚園に保管してある太鼓を園児が興味深く見ていたようで、「太鼓やりたい」「やってみたい」という声が聞かれた。「中学生に教えてもらおうね」と話していた折り、中学生との交流活動の一つとして太鼓交流を実施することになった。これが、中学生、保育所との交流のスタートとなった。
----	---

① ねらい

(幼稚園)

- ・ 中学2年生との触れ合いを楽しむ。
- ・ 太鼓を教えてもらうことで、太鼓に興味関心を持つ。

(保育所)

- ・ 中学生のお兄さん、お姉さんと仲良くなる。
- ・ 太鼓に興味関心を持つ。

(中2)

- ・ 異年齢の子どもとのかかわりを通して、自分より年下の園児に優しくできる心を育て、それを自分の周りのすべての人に対する思いやりにつなげ、人と共存していく力をつける。

② 検証のねらい

- ・ 太鼓の練習を通してかかわる嬉しさや楽しさが感じられる環境構成や援助の工夫が図れたか。

③ 環境の工夫

- ・ 中学生に風神太鼓を演じてもらい、太鼓への興味関心を高め、おもしろい、やってみたいという気持ちを持たせる。
- ・ 安定した情緒で、太鼓の練習をしてもらうように、顔見知りのお兄さんお姉さんと同グループにする。
- ・ 中学生やぞう組と十分にかかわりが持てるよう、事前に太鼓やバチを用意しておく。

④ 援助の工夫

- ・ 幼稚園児、保育園児と中学生が十分にかかわるために太鼓の打ち方、かかわり方を褒めるなど意欲を高めていく。
- ・ 中学生が小さな子どもたちとのかかわりがスムーズにいくために、打ち合わせ等を担当職員や中学2年生と行う。
- ・ 保育園児には、初めてということを考慮しながら楽しいと思えるような雰囲気作りをする。幼児や中学生とのかかわりを見守り、太鼓の打ち方を褒めたりしながら、意欲を高めるようにする。

⑤ 幼児の姿および考察

幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児が、ぞう組の弟に手を添えながら、太鼓を教える姿が見られた。 ・ 中学生にお兄さんがいるA子は「お兄ちゃん、かっこ良かった」と嬉しそうだった。 ・ お兄さんお姉さんに手を添えられて一緒にできることが、心地よさそうであった。 ・ 友だち同士リズムを教え合う姿も見られ、上手な子を褒める子もいた。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の叩いている様子を憧れて見ていたことから、幼児がスムーズに太鼓に触れることができたのではないだろうか。 ・ 交流の形態として各グループに分かれて、お兄さんお姉さんからマンツーマンで手ほどきをうけたことで安心して取り組めたのではないだろうか。



かっこいい中学生の風神太鼓



上手な子を褒める中学生の女の子



弟に太鼓を教えている4歳児



幼児にバチの持ち方を教えている中学生

(2) 6月14日 「友だちとの太鼓は楽しいな」 交流の次の日
 ～太鼓の練習・衣装作り・渡嘉敷まつり本番を通して～

- ① 保育のねらい
 - ・自分なりのイメージを持ち、友だちと一緒に太鼓の楽しさを味わう。
 - ・渡嘉敷まつりの本番に向けて、楽しく練習をする。
 - ・衣装作りを通して、友だち同士作り方を教え合ったり、聞いたりすることができる。
- ② 検証のねらい
 - ・中学生のお兄さんお姉さんのように上手になりたい、また、一緒に叩いてみたいという気持ちが持てるような環境構成と援助の工夫が図れたか。
- ③ 環境の工夫
 - ・幼児が、またお兄さんお姉さんと一緒に太鼓を叩きたいという思いが高まるように太鼓やバチ、CDを用意しておく。
 - ・幼児が、お兄さんお姉さん、大人の人に教えてもらいたいという気持ちを捉えて、太鼓の練習の見学や大人の太鼓のリズムを教えてもらえる場の設定をする。
 - ・衣装を作った後はそれを展示し、お互いのよさを認め合う中で、まつり本番を楽しく迎えらるるようにする。
- ④ 援助の工夫
 - ・太鼓のリズムが揃う心地よさを教師が言葉にしていく。
 - ・幼児同士で練習している場面で教師も一緒にできる楽しさから、活動への意欲を高める。
 - ・練習を通して、みんなとまつりで叩きたい等の気持ちが育つような言葉かけや援助をする。
 - ・衣装は「お母さん先生」に教えてもらって一人一人作るの、飾り付けに関しては、幼児のイメージを大切にする。

⑤ 保育実践

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★教師の援助	検証結果
6月14日 太鼓の練習開始	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に楽しく太鼓に関わることができる。 ・風神太鼓や慶良間太鼓の叩き方やリズムを真似することで、憧れの気持ちを持つ。 ・友だちのお母さんと仲良くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登園すると室内に太鼓があることに気づき、友だちと一緒に昨日の風神太鼓の真似をしたり慶良間太鼓のリズムを叩いたりまた、曲に合わせて太鼓を叩いている。 ・「先生、慶良間太鼓のリズム叩いて」とお願いする子がいて、職員が叩いて見せると「先生、上手」と言っってリズムを真似る子がいた。 ・自分達で、順番を決めたり太鼓のルールを教え合う姿が見られた。 ・風神の太鼓の音が聞こえると「見に行きたい」との声が聞こえる。 ・数年前の渡嘉敷まつり等のDVDを見ることで、「まつりにでたい」「まつりは、いつやるの」と本番を楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとかかわりわりが持てるように場の設定をする。(太鼓やバチ、CD等を準備しておく) ★幼児の太鼓へのかかわりやリズム等を褒めることで、一人一人の自信へとつなげていく。 ○太鼓を叩く場所は決めずに、幼児が好きな場所で太鼓にかかわれるようにする。(片付けの場所は決めておく) ★幼児同士のかかわりを認め、次へとつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だち同士、楽しく太鼓にかかわっていた。 ・前日の中学生の風神太鼓を思い出し、叩く姿も見られた。 ・教師が慶良間太鼓のリズムを叩くことで「先生、太鼓上手」等の憧れの気持ちを持つ子がいた。 ・太鼓を移動させ、かかわりを持たせたことで、自分達でアイディアを出し合ったり、相談したりして、楽しむ姿が見られた。



<p>7月16日</p> <p>衣装作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> イメージした衣装を友だちや先生、保護者の方と協力して楽しく作る。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような衣装を作ろうかと、友だちと相談する姿が見られた。 友だちのアイデアを真似る子がいた。 作り方の分からない子は、友だちや先生、保護者のお母さんに聞いている。 渡嘉敷まつり本番に期待を持ち、衣装作りをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○カラービニール、テープ、はさみを準備する。 ○幼児が楽しくかかわりながら衣装作りができるよう場の設定をする。 ★幼児のアイデアを紹介したり、よい部分を褒めたり等、他の幼児にもよさを知らせる。 ★保護者に手伝ってもらうことで幼児が友だちのお母さんと仲良くできる場面をつくる。 ※保護者と事前に打ち合わせをしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや保護者に作り方を聞いている幼児がいた。 いろいろなアイデアがあり、楽しく衣装作りができた。 「お母さん先生」の二人の母親が協力的で自分の子ども以外の幼児にも優しく接してくれた。 衣装を掲示することで友だちのよい作り方を褒める子がいた。 
<p>7月26日</p> <p>渡嘉敷まつり本番</p>	<ul style="list-style-type: none"> みんなでまつりに参加できることを喜ぶ。 風神太鼓や慶良間太鼓を見ることで、あこがれの気持ちを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当日、幼児達は張り切っている。 衣装に着替えると、早く舞台に立ちたいというわくわくしている子もいる。 本番では、みんな上手にできていた。また、本番終了後、地域の方々に「上手だったよ」等と褒めてもらい嬉しそうだった。 中学生の本番をじっと見たり、慶良間太鼓の職員に「先生、太鼓かっこよかったよ」等の声をかける子がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まつりは夜からなので夕方から衣装に着替えたり準備を行う。 ★幼児のテンションが高いため安全に十分配慮する。 ★本番前に幼児が楽しく舞台上に立てるようウキウキするような言葉かけを行う。 ★本番終了後、幼児を褒めてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早く夜にならないかとまつりを楽しみにする子や「衣装はいつ着るの？」と聞きにくる子がいて、本番を楽しみにしている気持ちが伝わってきた。 舞台上で太鼓を披露し、保護者や地域の方々から褒められ、とても嬉しそうだった。 かかわりのあるお兄さんお姉さんの演舞等を憧れの眼差しでじっと見ている子がいた。
  				
<p>【幼児の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生との太鼓交流が楽しかったという思いは、幼児の楽しく太鼓にかかわる姿になっている。 中学生への憧れから、太鼓のリズムを真似する姿が見られた。 友だち同士で、リズム等を考える姿や太鼓を叩く時のルールを教え合う姿が見られた。 衣装を作ったことで、わくわく感がふえてきて、本番を楽しみにしていた。 				
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 太鼓交流や友だちと一緒に太鼓にかかわりを持つことで、幼児の「太鼓は楽しい。〇〇君のリズムはかっこいい」等の気持ちが芽生えてきたのではないかと考える。 				
<p>【改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生との太鼓交流は、よい関係で実施できているので、継続してかかわりを持っていきたい。今後は、小学生とも太鼓交流を設定し、児童とのかかわりも充実させていきたい。 				

(3) 9月13日 「おじいさん、おばあさんと一緒にわっかかざりを作ったよ」
～高齢者生活福祉センターとの取り組みを通して～

① 保育のねらい

- ・福祉センターの利用者とのかかわりを通して、お年寄りを敬う思いやりの気持ちを育てる。
- ・おじいさん、おばあさんと一緒にわっかかざりを作る楽しさを味わう。

② 検証のねらい

- ・幼児が、おじいさんおばあさんに話しかけたり、わっかかざり作りを一緒にできるような環境構成や援助の工夫を図る。

③ 環境の工夫

- ・わっかかざりを作る時、幼児が、おじいさん、おばあさんと、かかわりが持てるよう家の近所のお年寄りの方の側などに座らせる。
- ・お年寄りの方と一緒に作ることで、コミュニケーションが取れ、お年寄りの方を身近に感じられるように環境を整える

④ 援助の工夫

- ・わっかかざりは、翌日、公民館で行われる敬老会に飾ることを話し、丁寧に仕上げよう等の言葉かけをする。
- ・お年寄りの方の手伝いをしている幼児を褒めたり、頑張っている幼児をみんなの前で褒めることで、幼児の自信へとつなげていく。

⑤ 保育実践

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★教師の援助	検証結果
9月13日 わっかかざり作り	・お年寄りの方と仲良くわっかかざり作りができる。	・お年寄りの方とのかかわりがスムーズで、楽しくわっかかざり作りをしていた。 ・お年寄りのために、色紙を取ってあげる幼児がいた。 ・お年寄りのわっかかざりと、自分達で作った物をくっつけ、長さを勝負をする子もいた。	○お年寄りとかかわりが持てるように幼児をお年寄りの間に入れる。 ★お年寄りの方と一緒に楽しくわっかかざりが作れるように雰囲気を作る。 ★お年寄りの方への言葉かけ等を教師が見本になる。 ★事前に明日の敬老会の舞台に飾ることを話し、幼児が楽しみながら作れるよう雰囲気作りをする。	・普段、お年寄りとかかわりが少ない幼児も優しく接している場面が見られた。 ・お年寄りの方も幼児に作り方を教えてくれる姿も見られた。
9月14日 敬老会	・わっかかざりを飾った舞台で楽しく踊る。	・わっかかざりを飾った舞台を見て「昨日、作った飾りだ～」と喜んでいる。 ・いつもより、張り切って踊り（パーランクー）を踊っていた。	★昨日のわっかかざり作りを思い出させ「舞台がキレイだね」等の言葉かけをする。 ○お年寄りの方にわっかかざりの首飾りをプレゼントする。	・踊りを周りの方に褒めてもらい嬉しそうだった。 ・幼児の踊りを見たり、首飾りをもらって、お年寄りは喜んでいた。



【幼児の変容】・お年寄りのわっかかざり作りを手伝う子や、進んで握手をしに行く姿が見られた。
・お年寄りとかかわりが楽しかったのか、集中してわっかかざり作りに取り組む子が多かった。
・幼児はお年寄りと一緒に作ったわっかかざりが飾られたことで嬉しそうだった。

【考察】・お年寄りの優しさと温もりを感じたことで、子どもたちはいつもより楽しくわっかかざり作りができたと考えられる。

【改善】・お年寄りや幼児達との交流等をもっと地域の方々に知ってもらえるような環境作りを行ってきたい。(役場等に写真を掲示する等)

2 検証保育（本時）

「小学2年生と一緒に遊ぼう」

11月1日（金）

～小学2年生との交流を通して～

(1) 設定理由

幼稚園は、普段から小学1・2年生とのかかわりがあり、いろいろな場面で顔を合わす機会も多い。これまでの交流活動の内容等は行事でのかかわりが多かったように思える。そこで、今回の検証保育までの実践には、小学1・2年生とのかかわり、また本時においては、小学2年生との交流活動を実施し、幼児児童が楽しくかかわり、小学生に対して憧れの気持ちを持ち、そして、幼児自らかかわりがもてるような実践になるよう環境構成と援助の工夫のあり方を検証していきたい。

(2) 保育のねらい

(幼稚園)

- ・小学2年生と一緒に仲良く遊ぶ。
- ・お兄さん、お姉さんとかかわりを通して、憧れの気持ちを育てる。

(小学2年生)

- ・園児達に思いやりを持って、接することができる。
- ・楽しく遊ぶことができる。

(3) 検証のねらい

- ・お兄さん、お姉さんと楽しくかかわって遊んでいたか。
- ・自分の思ったことや考えを進んで話をしたり、相手の話を聞くことができたか。
- ・楽しくかかわりが持てるような環境構成と援助の工夫が図れたか。

(4) 環境の工夫

- ・幼児の遊び慣れた環境の中で、小学2年生と共に仲良くかかわり、遊びが充実するような環境構成を行う。
- ・幼児と児童が共に同じ遊びができることを見通し、主体的にかかわることができるよう遊具等を準備する。

(5) 援助の工夫

- ・幼児に、小学生の遊びを見せることで、小学生の遊び方を真似してみたい、一緒に遊びたいと思えるような言葉かけをする。
- ・お兄さん、お姉さんとかかわりが持てない子に対しては、教師と一緒に遊びの仲間に入り援助する。

(6) 検証保育（本時）までの保育実践

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★教師の援助	検証結果
10月11日 小学2年生参加	・お兄さん、お姉さんと仲良く遊ぶ ・遊びを一緒に考えた工夫したりする。	・小学生と遊ぶことを楽しみにしている子がいた。 ・「○○にーにー、遊ぼう」と小学生を誘う子がいた。 ・竹馬の勝負がしたいと小学生のお兄さんに伝えている子がいた。	○前のかかわりから、小学生と遊んでいた道具や材料等を準備する。 ★前回の交流後の職員間の話し合いででた内容(ボールのけり方が強かった等)を遊びを通して教える。 ○その場の幼児児童の遊びの様子を参観しながら、環境の再構成を行う。	※交流時間、約1時間 ・前のかかわりが楽しかったようで「○○にーにーとこま作りしたい」という具体的な遊びをいう子がいた。 ・一緒に遊んでいなくても、お兄さんお姉さんのやっていることを見て、楽しんでいる子がいた。



お兄さんにコマ作り
を褒められた幼児



お姉さんと幼児の
背比べ



コマ作りの様子

園庭等の環境構成		室内の環境構成	
竹馬・フラフープ他	花壇・クジラ門	ピアノ	こま回しコーナー
	玄関	おもちゃブロック	積み木 ままごと
	砂遊び 園庭遊具	絵本	工作
		玄関	

【幼児の変容】

- ・お兄さん、お姉さんとかかわりが持てる子が多かった。また、児童も2回目の方が幼児と上手にかかわっていた。
- ・幼児自ら「〇〇にーにー竹馬やろう」と誘う姿が見られた。
- ・幼児と児童が一緒になって、楽しく工作する姿が見られた。
- ・普段、かかわりの少ない幼児と児童が遊びの中で楽しくかかわっていた。
- ・お兄さん、お姉さんに対して「優しい、凄い」と憧れの眼差しで見ている。

【考察】

- ・交流活動を「一緒に遊ぼう」の内容にしたことで、主体的に遊びを選べ、同じ興味を持った遊びにかかわったことで、お兄さんお姉さんと遊ぶことは、楽しいと思っただろうか。
- ・普段は、じっくりお兄さんお姉さんと遊ぶことが少ないので、このような交流活動を実施することで、小学生のことをより、身近に感じたのではないだろうか。

【改善】

- ・交流活動の時間が1時間ほどしかなく、遊び込めるまでにはいかなかったので、今後は時間の確保をしていきたい。
- ・自分からお兄さんお姉さんとかかわりを持っていない子への援助の工夫が必要である。

(7) 保育の展開 指導案

平成 25 年 11 月 1 日 (金) 年少組 (男児 7 名・女児 5 名) 年長組 (男児 5 名・女児 5 名)		
「小学 2 年生と一緒に遊ぼう」 保育者 (我喜屋 なおみ)		
幼児の姿	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お兄さんお姉さんと一緒に遊ぶことを楽しみにしている。 ・自ら進んでお兄さんお姉さんとかかわりが持てる子もいれば、そうでない子の姿も見られる。 <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学 2 年生のお兄さんお姉さんと楽しくかかわり一緒に仲良く遊ぶ。 ・みんなで好きな遊びを楽しむ。 ・小学 2 年生とのかかわりを通して、お兄さんお姉さんに対して、あこがれの気持ちを持つ。 	
小 2 の姿	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児達と遊ぶことを楽しみにしていて、事前に何をして遊ぼうかと考えている。 ・積極的に園児達に声をかける児童もいるが、接し方がわからない児童もいる。 <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児達に思いやりを持って、接することができる。 ・楽しく遊ぶことができる。 ・園児達に優しく声をかけたり、一緒に仲良く遊ぶ。 ・自分達でできることを優しく教えてあげる。 	
予想される幼児の活動	<p>○環境構成 ☆教師の援助</p> <p>教育要領の視点</p>	
<p>8:10</p> <p>*登園する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・所持品の始末 ・お花の水やり等 ・お当番 ・手洗い・うがい <p>*好きな遊びをする</p> <p>[戸外]</p> <p>園庭遊具・竹馬・砂遊び サッカー・フラフープ他</p> <p>[室内]</p> <p>ままごと・積み木・工作 ブロック・こま作り他</p>	<p>☆笑顔で挨拶を交わし、登園の様子を見守りながら健康状態を視診する。</p> <p>☆幼稚園にたくさんの先生方に来て頂くことは初めてなので、幼児が緊張しないように配慮する。(前日に話をしておく)</p> <p>○必要な道具等は、幼児が使いやすいように整理しておく。(ほうき・ジョーロ・スコップ等)</p> <p>☆お花の生長に気付けるような言葉かけを行ったり、幼児の発見を他の幼児にも教えてあげる。</p> <p>☆一人一人の遊びが充実するよう、教師も一緒になって遊びを楽しむ。また、<u>戸外で十分に体を動かして遊ぶ。</u></p> <p>○☆今日で 3 回目の「一緒に遊ぼう」なので、環境構成は前回と同じようにし、幼児児童のかかわりを参観する。但し、環境の見直しが必要な場所については、環境の再構成を行う。</p> <p>☆<u>工作コーナーの環境構成は、年長児と 2 年生が園に戻って来る前に行う。</u></p> <p>(前もって工作コーナーを準備しておく、その場所で年長児がかかわりを持った場合、途中で遊びを終わらせることが予想されるため)</p> <p>○<u>小学 2 年生と年長児も一緒になって好きな遊びを楽しむ</u></p> <p>☆自分から遊びに入れない子に対しては、教師も一緒になって遊んだり、また、遊びが発展するような言葉かけをする。</p> <p>☆自分のやりたい遊びや、お兄さんお姉さんと遊びたいことを<u>相手に言葉で伝える。</u></p> <p>○みんなで協力して片付けをする。</p> <p>☆今日の交流を振り返り、<u>発表の場</u>を設ける。</p> <p>☆保護者のお迎えを確認し、降園・下校する。</p>	<p>言葉内容(6)</p> <p>人間関係内容(3)</p> <p>健康内容(8)</p> <p>健康内容(7)(9)</p> <p>健康内容(2)(3)</p> <p>表現内容(5)</p> <p>人間関係内容(6)(8)</p> <p>言葉内容(2)(3)</p> <p>表現内容(3)</p>
<p>9:00~10:00</p> <p>年長児は、小学校との公開授業に参加する。</p> <p>10:00 まで、年少のみ園で過ごす。</p> <p>10:00</p> <p>(検証保育 60 分)</p> <p>*小学 2 年生と年長児、園に来る。</p> <p>*好きな遊びを楽しむ</p> <p>10:40</p> <p>*片付けをする</p> <p>*帰りの会をする</p> <p>11:00</p> <p>*降園・下校する。</p>	<p>☆工作コーナーの環境構成は、年長児と 2 年生が園に戻って来る前に行う。</p> <p>(前もって工作コーナーを準備しておく、その場所で年長児がかかわりを持った場合、途中で遊びを終わらせることが予想されるため)</p> <p>○小学 2 年生と年長児も一緒になって好きな遊びを楽しむ</p> <p>☆自分から遊びに入れない子に対しては、教師も一緒になって遊んだり、また、遊びが発展するような言葉かけをする。</p> <p>☆自分のやりたい遊びや、お兄さんお姉さんと遊びたいことを相手に言葉で伝える。</p> <p>○みんなで協力して片付けをする。</p> <p>☆今日の交流を振り返り、<u>発表の場</u>を設ける。</p> <p>☆保護者のお迎えを確認し、降園・下校する。</p>	<p>人間関係内容(6)(8)</p> <p>言葉内容(2)(3)</p> <p>表現内容(3)</p>
一評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> ・小学 2 年生のお兄さんお姉さんと、かかわりを持つことができたか。(仲良く遊んでいたか) ・幼児児童が、楽しく過ごすための環境構成と援助の工夫はできたか。 	
<p>・沖縄県へき地教育研究大会の中で、検証保育を行う。年長児は、9:00~10:00 までの間、小学 1・2 年生との公開授業に参加する。</p>		

2 保育実践 「お父さん先生・お母さん先生」 ～保護者とのかかわりを通して～

(1) 「お父さん先生・お母さん先生」とは・・・

・「園児達をみんなで育てよう」ということで、保護者の方に交代で園に足を運んで頂き、「とくいなこと、仕事の話」等を園児達と一緒にやって楽しむ取り組みである。

(2) 保育のねらい

・保護者に得意なことを披露してもらうことで、あこがれや尊敬の気持ちを持つ。

(3) 検証のねらい

・幼児が「お父さん先生・お母さん先生」とコミュニケーションが取れ、楽しく過ごせるような環境構成や援助の工夫を図る。

(4) 環境の工夫

・子どもたちにより分かりやすく、理解できるように必要な道具等を準備する。
・誰のお父さんか知らせることにより、より身近に感じられるようにする。

(5) 援助の工夫

・「お父さん先生・お母さん先生」と触れ合うことを通して、友だちのお父さんお母さんのことを身近に感じることができるようになる。
・友だちのお父さんお母さんに対して、恥ずかしがらずに話ができるよう雰囲気作りをする。

(6) 「お父さん先生・お母さん先生」の実施計画書（抜粋）

月	保護者	内容等	ねらい等	幼児の感想
7	お父さん 2名	海の生き物の話、海の危険な生き物の話 (パワーポイント)	夏休み前に海の生き物等について話をしてもらう。 (小学1・2年生も一緒に参加)	お父さんがパソコンで魚を映したのが凄かったです。あぶない生き物がわかったので、今度からみんな安全に海で遊べます。
9	お母さん 1名	調理場見学	調理場見学をし、幼稚園での食育活動へとつなげていく。	お母さん先生楽しかった。お母さん、かっこよかった。給食、美味しかった。
11	お母さん 4名	みんなで、カレーライスを作ろう	お弁当の日を利用し、みんなでカレーライスを楽しく作る。	野菜を切るのは簡単でした。ママは、カレーをつくるのが上手です。
2	お父さん 1名	絵本読み聞かせ	体育館で絵本を読んでもらいその後、発表会の練習を見てもらう。	パパは絵本を読むのが上手だった。パパは運動も上手で、重たい物も持てて、釣りも上手です。
	お父さん 1名	紙ひこうきブーメラン作り	みんなが大好きな紙ひこうきとブーメランを一緒に作って楽しむ。(小1, 2年生も参加)	幼稚園と1・2年生と「お父さん先生」をやったので楽しかったです。



【幼児の変容】

・保護者の方が、幼稚園に来てくれることを心待ちにしている幼児がたくさんいて、友だちのお父さんやお母さんと、仲良くかかわりを持つ場面が見られた。
・「お父さん〇〇が上手だよ」等の幼児同士の会話が聞こえてきた。

【考察】

・保護者に先生になってもらい、かかわることで、保護者のことを尊敬する気持ちが芽生えてきたのではないかと。

【改善】・保護者同士のつながりを作るためにも、他の保護者にも様子が参観できるようにしていく。

VII 研究の成果・今後の課題

1 研究の成果

- (1) 人とかかわるということは、受け入れられているということが、ベースになる。回を重ねることで、かかわりが深まっていくことが分かった。
- (2) 中学生との太鼓交流を通して、かかわりを持ち、教えてもらったり、褒めてもらうことで自信につながり、積極的に人とかかわれるようになってきた (VI—(1))。
- (3) お互い意見を出し合いながら、太鼓のリズムを考えたりすることで、友だちのかっこいい叩き方の真似をしたり、友だちのよさに気付くことができるようになった。この太鼓の練習を通して、幼児同士のかかわりが深まった (IV—1—(2))。
- (4) 幼稚園の中ではできないお年寄りとの交流の中で味わった、温かい雰囲気の中で相互に癒され安心感を得、そのままの自分を出せることにつながる。そのことが、幼児がお年寄りの方と仲良いかかわりを持つことにつながっている (IV—1—(3))。
- (5) 「お父さん先生・お母さん先生」を通して、保護者の方に自ら話しかけたりする姿が見られかかわりが深まっていった。また保護者の方の得意な内容が分かることで、これから自分が何かしたいと思う時の情報が得られ、ため込まれている。そのことが、自ら保護者に関わっていく力の源になっていくだろう (IV—3)。
- (6) 小学2年生とのかかわりは、教師同士の話し合いの場が増え、相互理解が深まった。また、幼児も小学校の先生方をより身近に感じ親しみが増した。そのことが小学校へ進学しても自らかかわる力となるだろう (IV—2)。
- (7) この研究を通して、改めて島のよさとは何かを考えるよい機会となった。そのことを十分に生かすことで小中連携、家庭地域との連携がスムーズにつながっていることがわかった。

2 今後の課題

- (1) 島ならではのよさを生かしながら、さらに充実した交流活動ができる環境構成と援助の工夫。
- (2) 幼稚園の中に、子育てネットワークを作り、保護者同士のかかわりを深める。
- (3) これまでは、単発的な交流活動等の内容が多かったが、今後、太鼓交流のように継続的な交流につなげていきたい。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
文部科学省	『幼児理解と評価』	ぎょうせい	2010年
無籐 隆・柴崎正行	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』	ミネルヴァ書房	2009年